20040

冠攣縮が急性冠症候群の原因と考えられた若年女性の一例

【背景】若年発症の急性冠症候群(ACS)症例においては、動脈硬化性病変のみならず冠攣縮がその発症に強く関与していることが知られているが、急性期に血管内イメージングを施行した報告は多くない。我々は、ACS の急性期に血管内イメージングと血栓吸引、慢性期に冠攣縮誘発と血管内イメージングを行い興味深い所見が得られた症例を経験したので報告する。【症例】42 歳女性。2012 年夏頃から胸痛を自覚。翌年春頃から発作頻度が増加し強い胸痛も出現するようになった為、当院紹介となった。外来の心電図検査中に強い胸痛発作が出現し ST 変化を認めた為、ACS と判断し緊急冠動脈造影を施行したところ、左前下行枝に 90%狭窄を認めた。治療に先立ち血管内イメージング(OCT/IVUS)を行ったところ、内腔に多量の血栓像を認めたものの粥状硬化所見が乏しかったため、血栓吸引を施行し白色血栓が採取された。血栓吸引後の造影では、血管 tonus の亢進を示唆する所見がみられ ISDN の冠注後には TIMI3 の血流が得られたため急性期治療を終了した。冠攣縮による血栓形成が本例の ACS の原因であると考え抗血小板薬と冠拡張薬による治療を行いその後胸痛の再発を認めなかった。第 7 病日に再造影を施行したところ左前下行枝の血流は良好であり、冠攣縮誘発を行ったところ急性期に血栓が存在した部位と同じ部位に強い冠攣縮が生じた。その後、薬物療法を継続し経過良好である。【結語】ACS の原因として冠攣縮の関与が強く示唆され、急性期に血管内イメージングを施行しその所見が治療方針の決定に有用であった症例を経験した。